

<経済>

シンガポール支店開設レセプションを開催

海外現地でのお取引先支援強化のため、昨年 12 月 5 日に駐在員事務所を支店に昇格させましたが、この度、4 月 17 日にシンガポールのマンダリンオリエンタルホテルにて、シンガポール支店開設レセプションを開催しました。

当日は、日本国内外より 200 社を超える企業から、400 名近くのお客さまにご出席いただき、大変盛大なレセプションとなりました。

レセプションでは、頭取とシンガポール支店長の開会挨拶、来賓祝辞のあと、この日のために地元愛媛県から取り寄せた地酒で鏡開きを行い、記念の榊で乾杯をして支店の門出を祝いました。また、サプライズゲストとしてみきゃんも登場。海外での鏡開きとみきゃんのコラボに、県内からお越しのお客さまだけでなく、外国人ゲストも大変な盛り上がりでした。



その後も、50 種類を超える愛媛地酒のバーカウンター等で皆さまをおもてなししましたが、参加した行員が当行のはっぴを着ていたこともあり、県内から来られたお客さまは、「この会場にいと、まるで地元にいるようだ」と大変満足された様子でした。

これからもシンガポール支店は、伊予銀行の海外ビジネスにおける最重要拠点として、支店行員一同、ASEAN 諸国でのお客さまのグローバル展開を全力でサポートしてまいります。

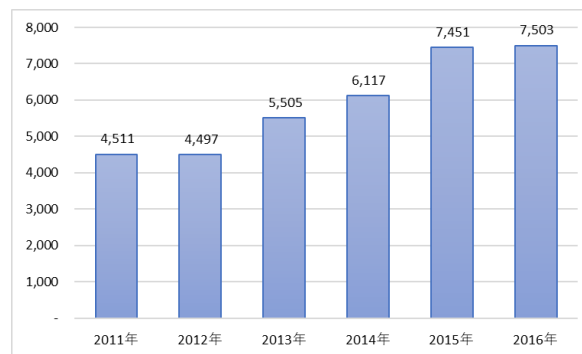
シンガポールに「Ishizuchi Sake Bar (石鎚酒バー)」がオープン

国内の人口減や少子高齢化に伴う市場縮小、需要不足が、食品などの内需型産業に打撃を与えつつある中、企業の規模に関わらず、日本企業の海外市場を目指す動きは加速しています。

農林水産省が発表した 2015 年の日本の農林水産物・食品の輸出額は 7,503 億円。東日本大震災後、4 年連続で増加しています。また、政府は「2020 年までに 1 兆円」の農林水産物・食品の輸出目標を掲げ、さらに輸出量を増加させていく方針です。

多くの企業が海外での販路開拓に取り組む中、シンガポールの商業施設内に、愛媛の地酒がカウ

農林水産物・食品の輸出額の推移



出典：財務省「貿易統計」

ンターバーで楽しめて、購入もできる「Ishizuchi Sake Bar (石鎚酒バー)」がオープンしました。

日本酒の国内市場は低迷を続けており、2001 年から比べると販売数量が約 40%減少するなど、厳しい状況にあります。一方で、日本酒の海外輸出は増加しており、国税庁によると、2016 年の輸出金額は約 155 億円。2011 年からの 5 年間で、日本酒の輸出金額は約 1.8 倍増加しており、海外市場においては右肩上がりの成長を続けています（2011 年日本酒輸出金額：約 87 億円）

「Ishizuchi Sake Bar」のオープンには、愛媛県知事や駐シンガポール日本国大使も駆けつけ、鏡開き等のイベントが行われました。現在、同店では、30 以上の銘柄が販売されていますが、今後、更に取扱いが増えることを期待しています。



Ishizuchi Sake Bar 外観



オープンを祝う鏡開き

シンガポールの見本市情報

Marina Bay Sands

名称	期間
Sea Asia 2017 デッキ機器、オフショア機器、クルー教育、船舶修理、船舶オペレーション	4月25日～4月27日
TFWA Asia Pacific Exhibition & Conference 香水、化粧品、アクセサリ、ワイン、ジュエリー、時計、菓子	5月7日～5月11日
Communic Asia 2017 ブロードバンド、ホームデバイス、配信ネットワーク、モバイルセキュリティ	5月23日～5月25日
Enterprise IT 2017 Exhibition 3Dプリント、ビッグデータ、クラウドコンピューティング、eサービス、ソフトウェア	5月23日～5月25日
Asian Attractions Expo 2017 各種ゲーム、乗り物、コイン作動マシーン	6月14日～6月16日

Suntec

名称	期間
Asia Health Exhibition 2017 病院・医療製品、サービス	4月3日～4月5日
Broadcast Asia 2017 オーディオ、ラジオ、配信	5月23日～5月25日

Singapore EXPO

名称	期間
21th Manufacturing Technology Asia 2017 エレクトロニクス、工業用塗料、マテリアルハンドリング、金属切削工作機械	4月4日～4月7日

*上記の見本市は予定が変更になる場合もありますのでご注意ください。

★ トピックスレポート（シンガポール人スタッフ便り）★

～シンガポールの学校事情～

4 月といえば新学期の季節と考える方も多いと思います。しかし、国が違えば学校事情も様々です。今回はそんなシンガポールの学校事情についてお話します。

まずは、シンガポールの教育制度のご紹介です。イギリスの植民地時代の影響で、各学年の分け方や呼称もイギリスの制度と同じものが多く見られます。しかし、教育システム自体は独自のシステムを取っています。

幼稚園から始まって、日本の小学校にあたるプライマリーが 6 年。当地では、幼稚園が K1、K2、小学校が P1、P2・・・という呼び方をします。次に日本でいう中学校、セカンダリーが 4 年から 5 年。ここまでがベーシック・エデュケーションといって日本の義務教育期間になります。ただし、シンガポールの義務教育はプライマリーまでです。そもそもこの義務教育制度ができたのが 2003 年というから驚きです。だからと言って、シンガポールの教育レベルが低いかというと全く反対であり、教育水準は世界でも極めて高いことで有名です。

シンガポールにおける学校の種類は次のとおりです。

【ローカル校】 シンガポール人と同じ学校で英語の授業を受け、第二外国語として中国語などを学ぶことができます。入学に関してはシンガポール国籍を持っている人が優先され、定員に余裕がある場合のみ外国人の入学が許可されます。学期の始めは日本と異なり 1 月になります。

【日本人学校】 日本とほぼ同じ環境で、日本語で授業を受けることができます。学力レベルは日本の平均的な公立校と比べ、かなり高いです。学期の始めは日本と同じ 4 月になります。

【インターナショナル・スクール】 多国籍国家シンガポールには、数多くのインターナショナル・スクールが存在します。ネイティブでさえウェイティング（リスト登録）しなければ入学ができない人気校もあります。学期の始めは日本と異なり、8～9 月になります。

種類	授業料	授業の主要言語	勉強量	入学時の英語能力の必要性
ローカル校	安価	英語・中国語	非常に多い	必須
日本人学校	中間	日本語	日本と同等	不要
インターナショナルスクール	高額	英語	学校によってばらつきがある	学校や入学年によって異なる

